

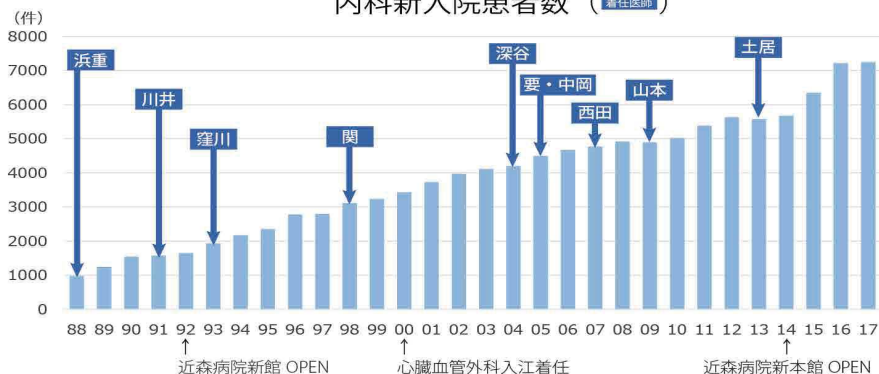
## 循環器内科開設 30 周年

### 何が本当に必要かを考える医療を

近森病院ハートセンター長  
内科部長兼診療担当理事 浜重 直久



内科新入院患者数 (着任医師)



#### 医師 7 人から医師約 45 人へ

1988 年に近森病院に着任し、循環器内科を開設後 30 年になりました。当初は内科全体で医師 7 人、病床数 60 床、年間新入院患者 1000 人以下でしたが、1992 年の新館（現 B・C 棟）オープン、2000 年の心臓血管外科開設、2003 年の地域医療支援病院認定、2010 年社会医療法人認定、2011 年の救命救急センター認定、2011 年の外来センターオープン、2014 年の新本館（現 A 棟）オープンなどを経て、たくさんの医師が集まってくれ、現在内科では医師約 45 人、病床数約 280 床で年間新入院患者 7000 人以上を診療しています。

#### specialist である前に general physician として

当初より、救急医療の砦として専門領域にとらわれず何でもひきうけること、入院や外来の患者さんを通して若い医師を育てること、病診連携によって地域医療のレベルアップに貢献することなどを意識してきたため、まずは

specialist である前に general physician として patient-first の reasonable な医療を心がけてきました。

#### 全国でも有数の循環器チームに

循環器の領域では、楠目修先生（現土佐楠目会理事長）と一緒に 1989 年に冠動脈造影（CAG）、1990 年に冠動脈インターベンション（PCI）を開始しました。当初は DSA をつけた年間それぞれ 100 例以下、10 例以下のほそぼそとしたスタートでしたが、次第に症例数が増加し、2000 年の心臓血管外科開設（入江博之現副院長）、ICU やカテ室のリニューアルなどを経て、現在では循環器内科 18 人、心臓外科 6 人で、昨年は年間 CAG・1715 件、PCI・571 件、心臓大血管手術・285 件を数えています。

2009 年以降は、川井和哉主任部長（現副院長）を中心に、PCI（山本哲史、西田幸司部長）や心エコー図など（窪川渉一、中岡洋子部長）だけでなく、

不整脈（深谷真彦、要致嘉部長）や末梢動脈疾患（関秀一部長、今井龍一郎科長）の治療、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）などにも力を入れ、中国四国はもとより全国レベルでも有数の循環器チームになってきています。これまで多くのスタッフを派遣していただいた、高知大学・小澤利男初代教授、土居義典前教授、北岡裕章教授、東京医科大学・山科章前主任教授、岡山大学・佐野俊二前教授をはじめ、昼夜を問わず献身的なサポートをいただいているメディカルスタッフや歴代研修医の皆さん、患者さんの紹介やフォローアップに協力していただいている地域の先生方に、心よりお礼を申し上げます。

#### 何が本当に必要かを考える医療を

近年の社会全体の economy-first の風潮の中で、とすれば医療収益や手術件数の増加にとらわれがちになりますが、医療費は公のものでしかも有限であるという当たり前の事実を意識しながら、何ができるか（what can I do?）ではなく何が本当に必要か（what should I do?）を考える医療をこころがけ、いつまでも患者さんや地域の先生方に信頼される近森病院循環器チームでありたいと思っています。これからも皆様のご協力をよろしく願いたします。

はましげ なおひさ

■ 近森病院院長交代のお知らせ ■ 2018 年 2 月 9 日付で、社会医療法人近森会理事長近森正幸が近森病院院長を兼務いたします。